

化石ウォーキングガイド全国版

相場博明 [編著]

丸善
 発売日：2016年6月10日
 定価：1,900円＋税
 ISBN：978-4-621089576
 18.3 × 12.8 × 1.1cm
 188ページ、ソフトカバー



化石や鉱物は収集家が多く、これらを探すためのガイドブックはこれまでも多くの本が出版されている。中でも本著は、化石を探すことだけを目的としたものではなく、ウォーキングを楽しみながら、現地の観光名所や博物館などを巡り、化石の観察も行おうという趣旨で書かれたガイドブックである。本著は、編著者による前著である「化石ウォーキングガイド関東甲信越版」のシリーズ2冊目となる。前著では、関東甲信越に限った26地点を紹介していたが、今回の全国版では北海道から沖縄までの27地点を紹介している。

編著者の相場博明氏は慶應義塾幼稚舎で教鞭をとっておられるが、これまでも化石や地質だけでなく科学実験の面白さを普及する著書を数多く出版している。化石ウォーキングガイドについても化石の専門的な解説を記述することは避け、できるだけ化石収集家以外の一般をも対象に普及するため平易な文章にこだわっているようだ。本著を手にとって読んでみると、とても丁寧にわかりやすく書かれている。本著で紹介されている27地点はすべてが相場氏によって執筆されているわけではない。北海道から沖縄までの紹介となるため、現地情報に詳しい、相場氏を含めた12名の中学・高校・大学の教員や博物館の学芸員の皆さんが分担して執筆しておられる。そのため、化石産地までの道案内として、細かい現地情報が記載されている。化石や地質と関係のない道すがら見える風景や駅、売店などの写真は道案内に好都合である。なお、本著で紹介されてい

る産地は基本的にウォーキングで回れる範囲であるが、中には公共交通機関やタクシーでの移動が必要となる場合もある。移動手段の紹介やウォーキングの難易度(散歩程度・軽いハイキング・ややきつい)も各産地の紹介の中で書かれている。

本著で紹介されている産地は以下となっている。北海道では三笠(もぐらい)、望来海岸(しらぬか)、白糠町右股(みぎまた)の3地域、東北では久慈(岩手)、野田玉川(岩手)、二戸(岩手)、南三陸歌津(宮城)、気仙沼岩井崎(宮城)の5地域、関東では立川(東京)、神流・上野村(群馬)、銚子(千葉)の3地域、中部では勝山(福井)、“下田ジオパーク”(静岡)、瑞浪(岐阜)の3地域、近畿では権現谷(滋賀)、宇治田原(京都)、丹波竜の里(兵庫)、白木海岸(和歌山)の4地域、中国では多伎(島根)、石見畳ヶ浦(島根)の2地域、四国では立川溪谷(徳島)、唐浜(高知)の2地域、九州では御所浦(熊本)、南種子(鹿児島)、海洋博公園(沖縄)、古宇利島(沖縄)、うるま(沖縄)の5地域である。

これまで多く出版されている化石産地の紹介本では、私有地の問題や産地での注意事項についてあまり記述されていなかったと思う。露頭があるからといってすぐにハンマーで叩いてよいわけではなく、観察だけあるいは写真に収めるだけに留める必要性についても書かれている。採集の際には露頭を大きく崩したりすると問題となり、その後、採集が許可されなくなったという事例も聞かれる。そのため、きちんと守るべき採集のマナーが具体的に書かれてい



る。化石を観察するだけではもの足りず、やっぱり化石採集をしたいという読者のためには、管理地において採集会を実施している博物館などが紹介されている。ほかにも化石の採集時の服装や持ち物、採集方法や採集してからのクリーニングと保管方法についても紹介されている。

紹介されている27地点のうち、9地点がジオパークに属している(三笠, 三陸, 銚子, 恐竜溪谷ふくい勝山, 天草ジオパーク)。ジオパークは自治体を中心となって進められている活動であり、国内には8地域の世界ジオパークが、43地域の日本ジオパークが日本ジオパークネットワークに登録されている。それらの中には化石産地がジオパークの目玉になっていることが多く、露頭が保護されている場合が多い。したがって本著を参考にしてジオパークを見て回るのも面白いと思われる。多様な地質現象であるジオサイトや歴史民俗的なジオサイトも多く、化石をきっかけにその地域の大地の成り立ちや知見を深めることができるだろう。

本著の「はじめに」に、“化石にはロマンがある”と書か

れている。私も化石を専門としている研究者であり、よく同じようなことを言われる。職業として化石を扱っていると、そのようなときは「ロマンかなあ?」とってしまうことが多いのが正直なところである。しかし、本著をあらためて読み進めると、大地に眠っている化石を自分の足で歩いて探しながらその地域を楽しみ、さらに過去の生物が生きていた地球を想像するということは、やはりワクワク感があり“化石(地質)はロマン”なのでであると再認識させられた。最近の健康ブームで近所を散歩するのもよいが、本著を手にはたまには遠出をしてウォーキングをすることで新しい発見に出会うことも楽しいものだろう。

本著には“下田ジオパーク”として、伊豆半島南端の下田地域が紹介されている。同地域を含む伊豆半島ジオパークは日本ジオパークネットワークに登録されているが、現在のところ“下田ジオパーク”は登録されていない。本著の誤りとして付記しておく。

(産総研 地質調査総合センター 地質情報研究部門 中島 礼)